



江戸時代の酒蔵を拠点に 地域の歴史文化の情報発信

市川マップの会



団体設立経緯

平成4年8月市川大門の道祖神めぐりを企画し、同年8月「次世代に市川大門の伝統・歴史文化を伝承しよう」をテーマに初代会長一瀬八重子・発起人5名で設立しました。会員24名で、現在は例会会場を「旧二葉屋酒造」として、月例会を開催しています。

郷土史家の立川實造先生の指導のもと、各地域を取材し「市川大門散歩マップ」の冊子を作成しました。なお冊子は平成9年に山梨県県民生活課の補助を受け完成し、旧市川大門町民へ全戸配布（当時の世帯数3200世帯）をしました。主な活動として、小学校から父兄参観日の行事として、また、町内外の生涯学習などの団体より町並みウォッチングの依頼があり、地域の文化財・史跡・自然等を案内しています。その他、まちづくりフォーラムを6回開催し、百人会議や講演会も開催しました。

設立年月……平成4年8月1日

メンバーカー数……24名

代表者名……一瀬 茂(いちのせ・しげる)

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1200(株)邦文堂

電話 055-272-0218 FAX 055-272-3218

メールアドレス ichinose@hobundo-c.com

ホームページ

<http://www.hobundo-c.com/map/mapindex.htm>

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/pcland042>

<団体のミッション>

わたしたちは、地域の「歴史・文化の力」を信じて、江戸時代の酒蔵を拠点に地域の歴史と文化の伝承・保存及び情報発信を目的として町づくりの活動を行っています。

地域概要

市川大門地域は山梨県西八代郡市川三郷町に在り、蔵、厚壁造りの家が多く、江戸・明治・大正・昭和初期の美しい家並みが残っています。一丁目から七丁目ごとに双体道祖神があり、由緒ある石碑も点在しています。地場産業の和紙は千年の歴史があり、徳川幕府の御用紙となり、当地域は民力を蓄え繁栄しました。もう一つの地場産業である花火もこの地の和紙を使用しています。寛政七年(一七九五)に市川代官所となり、そのお膝元で原料の硝石が入手できたので、花火作りは一定期間だけですが許されました。当時日本三大花火の一つと評されていました。明治からは産業として定着しています。

市川大門地域は、甲府盆地の南端で、釜無川と笛吹川が合流し富士川となる位置で、古くから駿河を結ぶ河内路の始まりでした。甲斐の物流を担う富士川舟運の黒沢河岸もあり、対岸には、青柳河岸、鰍沢河岸が控えている交通の要衝でもありました。

代官所により江戸の文化の影響があり、甲斐で初めての俳書が作られ、多数の寺子屋もあり、遡ると鎌倉時代夢窓国師が初めて得度した平塙寺もありました。現在でも市川は、茶道・華道・書道・短歌や川柳が盛んであり、文化の香り立つ町です。

活動に至った理由や背景

平成18年に国の登録有形文化財指定の『福金楼』が人手に渡り、存続の危機となり、保存運動を行いましたが、取り壊されてしまいました。この頃、二葉屋酒造が経営不振となり、取り壊して分譲する話がありました。家主とともに町での保存をお願いしましたが、叶わずやむなく当会の会長が購入しました。二葉屋酒造の母屋を改修し、石川工務所と工学院のゼミ生の協力のおかげで登録有形文化財に認定されました。

会の活動はこの母屋で行いましたが、多数の人が集うことになり、床に負担がかかり、活動に使用することが不安になりました。そこで、物置にしていた同じ敷地内にある江戸時代から続いている酒造蔵を、絵画、書、映像などの展示や地域の子どもやお年寄りまでの方々が集える場として提供できるように改修を決めました。



活動内容と成果

お蔵の設計をホルヘ・アルマザン研究室へ依頼

お蔵の棟木はすばらしい太さですが、屋根、壁、柱、建具が所々破損しており、樽や蓋などの酒造の道具、衣類、生活道具が雑然と置かれた状態でした。また、江戸時代から三つのお蔵が重なっていたものを切り取り、一つだけ残したため独立した蔵の形状ではなく、内壁にあった出入り口は扉がなく、おだれの部分の壁はなく、開放の状態でした。取り壊した蔵についていた大戸を取り付けようとしたが、構造的に無理だと聞き、大工さんにお任せするだけでなく、どのような外見にするかも含めデザインしてもらう必要がありました。母屋を展示会場に利用した縁で、千本格子の掲示板をデザインするなどユニークな発想をする慶應大学のホルヘ・アルマザン研究室(以下「ホルヘ研究室」と略記します)のゼミ生が、お蔵の改修を引き受けってくれました。



市川マップの会がイメージする蔵の姿

会のメンバーで何回も会合を持ち、今後どのような活動をしたいのか、そのためにどのようなお蔵にしたいのかを話し合いました。

- 1.多くの人が集える空間。
 - 2.展示が効果的にできる空間。
 - 3.共同作業ができる場。
 - 4.地域を活性化したいと活動している人が気軽に利用できる場。
 - 5.私たちが子どもに見せたい映画が上映できる場。
- にお蔵が改修できればいいとお願いしました。

平成27年3月 慶應大学生からの提案

ホルヘ研究室のゼミ生がイメージデザインやジオラマを作り、見積り金額等もついた提案をしてきました。

外壁の上部はモルタルで白色塗装をし、下部を杉板張りにしたものでした。白壁と木目の外観が、母屋や庭との調和が取れていて市川マップの会員全員が賛成しました。また、母屋や路地からお蔵までに誘う飛び石が提案されましたが、会員はお蔵の改修のつもりで臨んでいたので、あまりに突飛な提案と思い、賛成する人は少数でしたので、次回へ持ち越しとなりました。

平成27年3月 ハウジング＆コミュニティ財団の助成決定

応募していたハウジング＆コミュニティ財団の助成決定の報があり、ホルヘ研究室ゼミ生と打ち合わせをしました。入口の高さを広げ舞台を外と内側に造るユニークな提案がありました。マップの会の会員は奇抜さに驚きましたが、会員で楽団に入っている人が大いに関心を持ち、また、熱心なゼミ生のプレゼンやイメージデザイン、ジオラマを見て全員が説得されていました。



平成27年4月 やっと宮川建築所に決定し打ち合わせ

ホルヘ研究室のゼミ生は何社にも依頼をし、事前に何度か現場を見てもらいマップの会も会長を中心にお話し見積りを聞くなどして、塩山の宮川建築所に決定しました。何回も図面と現場とのすり合わせを行いました。その後、改めて見積書を提示してもらい、耐久性や金額的なことも考慮して酒蔵壁面の木材の種類の変更等も行いました。



平成27年5月 酒蔵修繕開始

マップの会の会員やボランティアをしてくださる方々が多数集まり、また、研究室のゼミ生も加わりお蔵の内部を片付けました。酒造の道具の樽や桶、舟、階段、梯子など雑然としていましたが、どれも今後展示や再利用したいものでしたので、皆の知恵を出し合い、屋根つきの場所を確保してなんとか片付けました。床が大分泥などで汚れていて、塗ってあるコンクリートが見えてくるまでに時間がかかりました。

平成27年5月 宮川建築所とお蔵の改修の最終打ち合わせ

マップの会の主要メンバーとホルヘ・アルマザン先生、ホルヘ研究室のゼミ生が3日、甲府駅の近くに集まり、宮川建築所と色目や木材の選定などを修正し、最終見積もりが提出されました。斎藤工務店は飛び石変形コンクリートの成分見本を二通り持ってきてくれ、それぞれの立場での意見が出され最終決定をしました。

平成27年6月 酒蔵修繕の安全祈祷

16日に改修工事に取り掛かりました。宮川建築所だけでなく、屋根や壁の修理をする方や電気工事の人、ボランティアでお手伝いに来てくださる方にも怪我がないようにと、法傳寺副住職により酒蔵修繕の祈祷をしてもらいました。大工さんや職人たちにより工事が進められますが、ホルヘ研究室のゼミ生が定期的に来て図面

通りに行われているのかをよくチェックし、宮川社長にその結果を伝えて改善をお願いしていました。また、マップの会の会員も時々様子を見に集まり、手伝えそうなことを見つけて建具や酒造で使用した道具を洗い修理しました。

平成27年8月 ホルヘ研究室のゼミ生が塗装

外壁下部板張や舞台、屋根内側の木材部分、特に高いところや、見えないところも木が腐らないよう塗り残しなく丁寧に2回重ねて塗装しました。

内壁の修復は、マップの会の会員やゼミ生で行う計画で近隣の方にも協力をお願いしていました。穴の開いた所やひびの入っている所を修復するのですが、あまりに修復箇所が多いことや、高いところの修復もあり危険なため、やむなく高いところは左官屋さんにお願いすることになりました。屋根はいたんだ箇所だけを交換する予定でしたが、瓦の傷みが予想を超えていたので、軽い張物に変更しました。



平成27年8月 お蔵に図書室を

地域の歴史研究をされていた中倉茂先生が亡くなり、遺族の方々に先生の蔵書を会で活用してほしいと依頼されました。マップの会で話し合い、改修するお蔵は、市川の歴史文化の情報を発信することが大きなテーマであるため、先生の本を活用するように図書室を造ることに決めました。慶應大学のゼミ生と打ち合わせてお蔵の内部の一部屋に、元杜氏の棟梁が使っていた部屋があるので、そこを図書室にすることに決めました。マップの会の有志で先生のお宅にある1000冊程の本を2日がかりで整理し、ひとまずダンボールに片付け、一時倉庫に仮置きました。

平成27年9月 ホルヘ研究室第1回まちづくりワークショップ壁面塗装

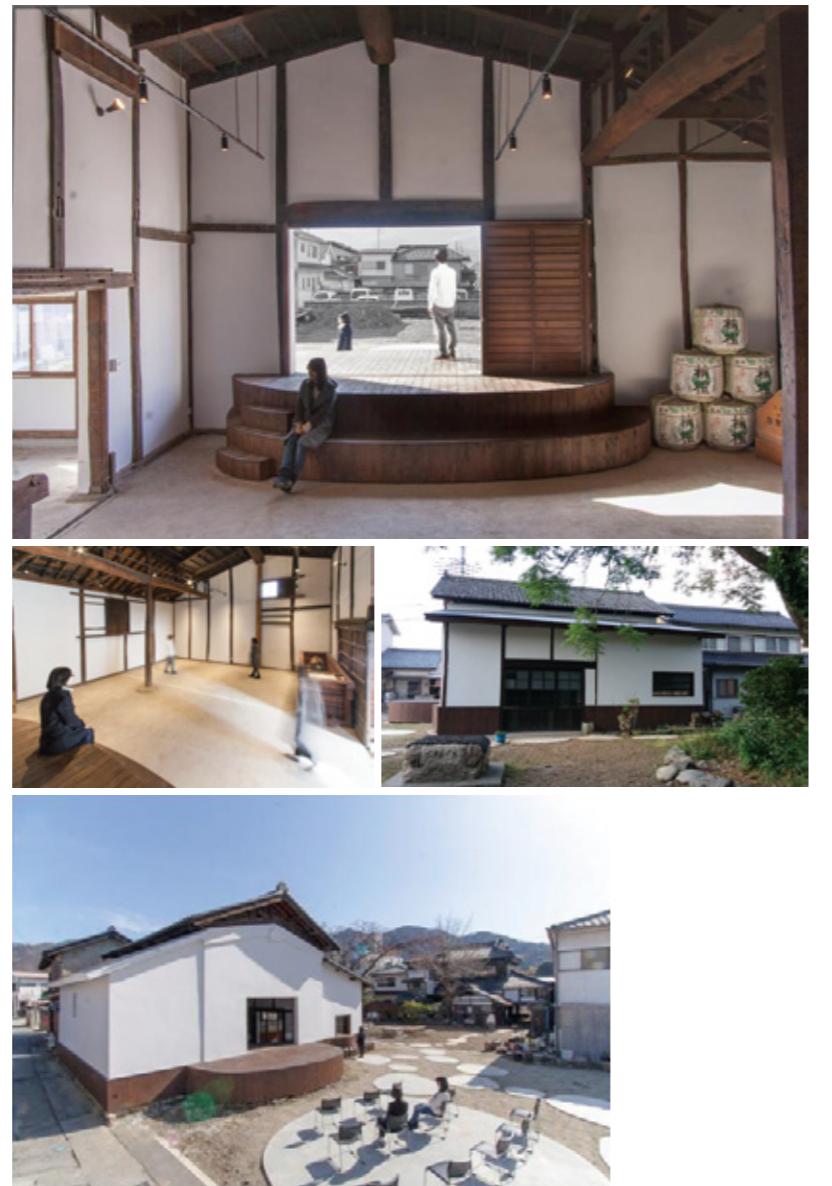
マップの会や慶應大学生、近隣の方も含めて危険でないところの内壁の修復を左官屋さんのご指導の下、何とか無事に行いました。壁面の修復ができればのほとんどを左右するので、丁寧に行いました。

平成27年10月 お蔵の改修が完成

やっとお蔵が完成しました。ホルヘ研究室の古民家再生プランのプレゼンテーション通りに、内部と外部に半円ずつ飛び出している大きな舞台が組み込まれ、見違えるようなお蔵になりました。これを拠点に地域の歴史文化の情報発信をしようと、改めて会員同志で盛り上りました。ギャラリーとして市川三郷町の歴史・文化のアイテムの展示やマップの会主催であるphotoコンテストの展示、そして多方面における舞台の活用など、地域の方々が集まる場として提供できればと夢を馳せました。

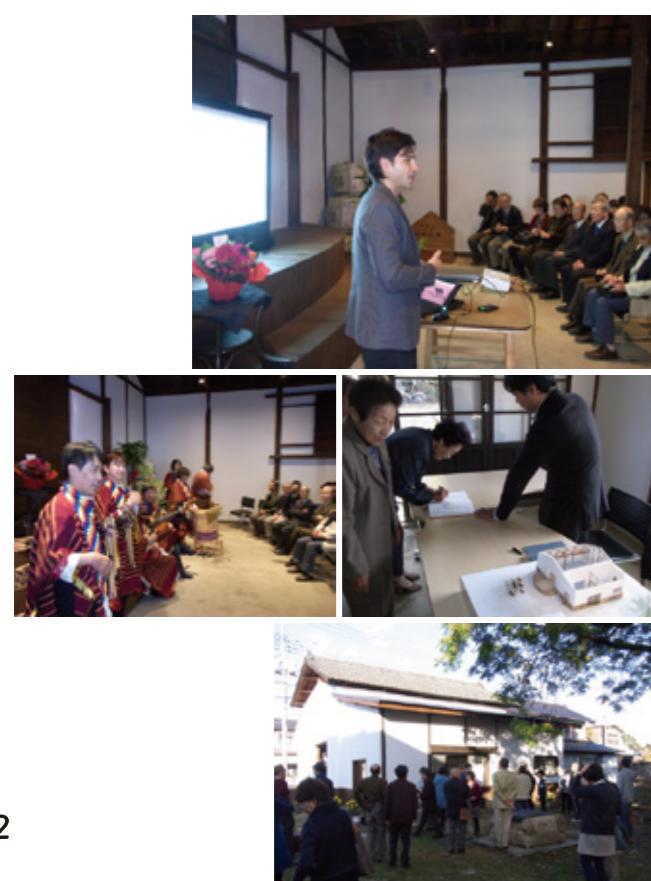
**平成27年11月 飛び石の変形コンクリートの工事
～12月**

懸案だった飛び石の変形コンクリートの工事を斎藤工務店が始めました。酒造蔵前に変形円のコンクリートで飛び石を作り、机や椅子を置いてホワイエスペースを設け、梅壇や桜、柿などの大木や池、井戸、水路などと調和し、憩える場として住民がより気軽に蔵を訪れることができるよう工夫しました。



平成27年11月 プレこけら落し

飛び石の変形コンクリートの工事完成が12月の中旬と聞き、お蔵改修の完成を祝う会の日取りに困りました。お蔵は冬季とても冷えるため来春までお祝いが出来ないと考え、やむなく11月中にプレこけら落しすることになりました。市川マップの会は何回も会議を開き、イベントを企画しました。招待者は工事中ご迷惑をおかけした近隣の人々や山梨の地域おこしの方々、色々お知恵を戴いた方々、お蔵を改修してくださった方々など80名ほどで行いました。式典はマップの会の会長の話、ホルヘ・アルマザン先生の研究テーマの講義、ホルヘ研究室のゼミ生の経過報告がありました。町長さんや山梨総研の副理事長、印傳屋の部長などそうそたるメンバーがそろいました。その後、当会員のメンバーが所属する楽団が南米のfolkloreの演奏をし、会場の皆様が楽しみました。演奏会の後、反省会を行い、このお蔵の今後の活用法をそれぞれ思い思いに発表しました。



平成28年3月 図書室に中世の歴史学の第一人者五味文彦先生の本

マップの会のメンバーで、2日間で中倉先生のご本を図書室に入れ、本棚に納めました。放送大学を退官される五味文彦先生がその話を伝え聞き、研究室にある本を市川マップの会に寄贈してくれました。1000冊程の本で、図書室の蔵書が一気に2倍となりました。先生はマップの会の依頼で、平成26年9月13日「市川、その歴史と文化の力」と題し、市川三郷町民会館で講演をされております。

平成28年4月 こけら落し

こけら落しを春にと、何度も打ち合わせをしました。やはり舞台を使ったものがいいと案がたくさん出ましたが、会長が強力に佐久間二郎先生の能舞と講義を推薦しましたので決定しました。佐久間二郎先生は、平成27年9月に母屋の座敷で能の体験もできる会をしてくれました。先生は舞台を見て御囃子を五名お願いし、本格的な衣装も着けて舞うことにされ、話はだんだん大きくなり、入場料を戴かなくてはならなくなりました。先生から外側の舞台を使いたいとの要望もあり、雨天決行できる設備を考えました。ポスターやチケット制作、協賛依頼、販売等何回も打ち合わせをして、150名ほどの動員が出来て大盛況でした。能舞「猩々」のストーリーは、酒をこよなく愛し、海中に住んでいる妖精が、ある月の晩、海上に現れ、酒を飲んでは波に揺られつつ舞を舞うというめでたいものです。酒に酔った風体で、特殊な囃子「乱(みだれ)」に乗せて舞う舞が見どころという演目が功を奏したと思われます。能舞の前に、能を面白く見てもらうための解説を面白おかしく話されたことも好評でした。また、舞台の奥に酒樽を積み上げたり、舞台の両端に竹を立て、前面に朱の酒樽を置くなど舞台装置をマップの会の皆で考えて盛り上げました。

講演後の反省会では、毎年この催しをという声もありました。



今後の予定

市川マップの会ではこのお蔵を活用して、町並みウォッチングや舞台を活用したイベント、百人会議、歴史文化を学ぶ会、図書室の活用、婚活や花いっぱい運動などを企画していきます。また、ジオラマの製作や近隣の方のお宅にあるお雛様の展示などの依頼が来ています、こけら落しで好評でした能の佐久間先生も毎年できればと話されています。できる限り皆様の活動に協力してお貸したいと思っています。また、新たな文化的な催しも企画して、楽しんで集うところにしていきたいと計画中です。市川高校の生徒を巻き込んだ企画も校長先生と話し合っています。市川大門地区の発展に寄与していきたいと思います。